

ベ　ー　リ　ン　グ　要　素

小　泉　源　一

大正八年予は日本高山植物要素の由來を論ぜし時、ベーリング地域は第三紀終第四紀始に於て寒地植物要素の發生盛にして、其等の内には日本群島の長軸に沿ひ南下せしもの多きを指摘し、且つ之等をベーリング要素として示したり。

ベーリング海峡は目下幅さ六十哩にして最深僅に 32 尋、平均 25 尋に過ぎず、氷紀に於ける氷の蓋積より見ても此海峡は當時乾海の高臺たりし事は考へらるゝも、尙ベーリング要素の當時以來の分布上より亦然らざるを得ざる結論となるが、北米地質地史學者の近來の考察も皆第三紀末より更新世の間はベーリング海峡地方は高臺であつて、當時直ぐ南の British Columbia などは更新世の終りよりも二千呎も高くあつた而此陸橋も更新世の終ると共に又淺海と變じた、と云ふ結論に一致してゐる。

日　本　産　ウ　テ　フ　ラ　ン　屬

Ponerorchis of Japan, J. OHWI.

大　井　次　三　郎

露西亞の學者 NEVSKI は最近 *Orchis pauciflora* FISCH. に對して二個の葯塊の腺体が各別な二個の被包物で包まれて居る點で *Chesua* NEVSKI. を建てたが外觀から云ふと *Orchis* に酷似して居るにも拘はらず此の點では現在の *Orchis* の定義にはあてはまらないのでさうなづけるだけの理由がある、只 *Chesua* よりも *Ponerorchis* REICH. fil. の方が正しいからそれを使ふべきものと考へる、本邦で眞の *Orchis* は *O. aristata* FISCH. (ハクサンチドリ) だけと成り *Ponerorchis* は次の様である。

Ponerorchis REICH. fil. in *Linnaea* 24 (1852) 227

= *Chesua* NEVSKI in KOMAR. Fl. URSS. 4 (1935) 753.

1) *Ponerorchis graminifolia* REICH. fil. l. c. 228 (*Gymnadenia rupestris* MIQ. in Ann. Mus. Bot. Lugd. Bat. 2 : 209, 1869) ウテフラン.

2) *Ponerorchis Chidori* OHWI, comb. nov. (*Gymnadenia Chidori* MAKINO in Bot. Mag. Tokyo 15 : 47, 1901) ヒナチドリ.

3) *Ponerorchis pauciflora* OHWI, comb. nov. (*Gymnadenia pauciflora* LINDL. Orchid. 280, 1835 = *Chesua secundiflora* NEVSKI l. c. 753) テフセンチドリ.

var. *Joo-Iokiana* OHWI, comb. nov. (*Orchis Joo-Iokiana* MAKINO in Bot. Mag. Tokyo 16 : 57, 1902 ; OHWI in Act. Phytotax. et Geobot. 4 :